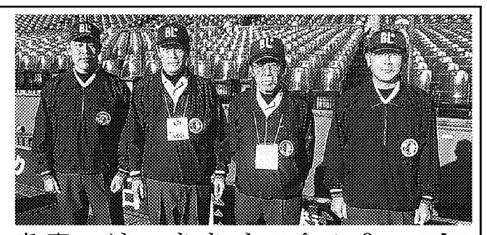


審判にとっても甲子園は聖地

審判にとっても甲子園はあこがれの聖地

「タイガースカップ2015　中学生硬式野球・関西NO1決定戦」の開会式。そんな中、関西ブロック広報委員会は、同じくグランドに立ち、試合を行う審判員にスポットを当ててみた。

初日の担当となったのは、森川、島田、井上、田中の各審判員である。第1試合の主審を務めたのは田中審判員だ。試合を無事に終えた田中審判員に尋ねてみた。「審判員の皆様にとっても、ここ甲子園球場は聖地とされている部分があろうかと思いますが、実際にグランドに立たれていかがでしたか」と聞くと、田中審判員は緊張した面持ちで「私たちのためにも立派なジャッジを行えるように心して挑んだ」と語られた。

ジャッジする審判員はいつもと同じような質問をしたところ「開幕試合だったので緊張という部分ではいつも以上のものがあったが、それも2回まで。そのあとは、選手が思う存分グラウンドで活躍できるように最低限の仕事を心掛けていたので、普段通りのジャッジができたと思う」と、にこやかに語った。そして、最後に「次回このようなチャンスがあれば…」と、問いかけると。すかさず「もちろんやりたい。選手が甲子園で大きく育つように、私もここでの経験は、これからの自信につながるものだと信じている」と、締めくくられた。

ここ、甲子園は審判員にとっても、間違いなく人を育てる聖地であるようだ。

「スコアボードの審判員の欄に、自身の名前が載り、アナウンスが入るのはとてもうれしいが、同時に責任感もひしひしと感じていて、いつも以上に身が引き締まる思い」と話す。以前、同じような質問をし、喜びを語る審判員に「ベースでつまづいてこけないように気を付けないと」と、試合前にジョークを言ったところ、思いっきり緊張されていたことを思い出した。

田中審判員には、試合後に同じような質問をしたところ「開幕試合だったので緊張という部分ではいつも以上のものがあったが、それも2回まで。そのあとは、選手が思う存分グラウンドで活躍できるように最低限の仕事を心掛けていたので、普段通りのジャッジができたと思う」と、にこやかに語った。そして、最後に「次回このようなチャンスがあれば…」と、問いかけると。すかさず「もちろんやりたい。選手が甲子園で大きく育つように、私もここでの経験は、これからの自信につながるものだと信じている」。そのあとは、選手が思う存分グラウンドで活躍できるように最低限の仕事を心掛けていたので、普段通りのジャッジができたと思う」と、にこやかに語った。そして、最後に「次回このようなチャンスがあれば…」と、問いかけると。すかさず「もちろんやりたい。選手が甲子園で大きく育つように、私もここでの経験は、これからの自信につながるものだと信じている」。

ここ、甲子園は審判員にとっても、間違いなく人を育てる聖地であるようだ。

自分の思うがままにプレーを

堺ビックボーイズOB 横浜DeNA筒香選手からのメッセージ

新年あけましておめでとうございます。

阪南支部に所属する堺ビックボーイズ（現・堺中央ボーイズ）出身で、横浜DeNAベイスターズでプレーしている筒香嘉智です。現在24歳で、今年7年目のシーズンを迎えることになります。この度、2016年を迎えるにあたり、このボーイズリーグニュースに寄稿する機会をいただきましたので、野球をプレーしている小中学生のみなさん、その子供たちを支える指導者や保護者のみなさんに僭越ながらこの場を借りてメッセージをお伝えしたいと思います。

言うまでもなく、私自身も子供のころは今の小中学生たちと同じように将来の夢を胸に膨らませながら日々野球に打ち込んでいました。その中で、指導者のみなさんや家族の支えがあったからこそ今の自分があるということは紛れもない事実で、その感謝を胸に今でもプレーを続けています。

よく「小さい頃からすごい選手だったんでしょ？」と聞かれることがありますが、ボーイズリーグに所属していた中学生の期間（特に2年生の途中までは、成長期ということもあり怪我も多く、特に目立った選手ではありませんでした。でも、その時期に無理をせずに、将来に役立つ体作りをすることを、指導者や家族が勧めてくれたことが今の自分につながっているのだと思います。そのような経験からも、今の子供たちには、今すぐにいい結果が出なくて、現時点で有名な選手でなくても、決してあきらめることなく野球を続けて、毎日少しずつでも上達できるように努力を続けてほしいなと願っています。

さて、この原稿を書いている12月15日現在、私は日本から遠く離れたカリブ海に浮かぶ島国・ドミニカ共和国のプロリーグ（ウィンターリーグ）に1か月の期間参加し、そこでプレーしています。同国は日本よりもはるかに小さい島国ながら、たくさんのメジャーリーガーを輩出し続けており、現在所属している球団のチームメートもほとんどがメジャーリーガー、対戦する相手投手もレベルの高い投手ばかりで、自身の技術向上に取り組める素晴らしい環境があります。

ただ、技術だけではなく、とても勉強になるのは、彼らの野球に対する姿勢・考え方の違いです。野球とはそもそも失敗のスポーツ。ヒットを打つ確率より、アウトになる確率の方が高いスポーツです。なので打てなかったらどうしようと考える必要はなく（打てない方が多いのだから）、自身の持っている力を最大限発揮することを考えて、打てなくても落ち込むことなく、その時にはもう次のプレーのことを考えています。そんな彼らとプレーしていて、こんなにも「自分も早く打席に立ちたい！　早く打順が回ってこないかな！」と思いながらプレーしたのはいつ以来だろうと思うくらい、前向きに楽しく野球をすることができています。

自身のプレー以外にも、街を歩いていると、そこらじゅうでボーイズリーグに所属するみなさんと同じくらいの年代の子供たちが野球をしています。そして、その子供たちもまるで一緒。まったく失敗を恐れずフルスイングし、豪快な三振やエラーをしても気にすることなく笑顔で野球を続けています。そして、そこにあるのは指導者や保護者のため息や指導者の怒声などは存在しません。

「三振したくて三振する選手、エラーしたくてエラーする選手はこの世界には一人もいないんだよ。彼らはいつかきっとうまくなる。時間はかかるけど、彼ら自身が自ら答えを探しながら成長していくのを待つんだ。一番大切なことは、子どもたちがいつまでも野球を好きでいること、前向きにプレーできるように背中を押してあげることだと思うよ」と、明るいコーチたちは話してくれます。

私自身も現役選手ではありますが、近い将来このような環境で子供たちが伸び伸びと能力を伸ばすことができるアカデミーを立ち上げたいと思っています。2016年が日本野球の新たなスタートとなることを願って新年のご挨拶とさせていただきます。

今年もどうぞよろしくお願いします。

ウィンターリーグに参加中の横浜DeNA筒香【下】ドミニカの子供たちと笑顔で接する筒香

第一に審判員の充実を

中四国ブロック

〝あけましておめでとうございます〟

旧年中は連盟の活動方針に対する御理解とご尽力のおかげで全日程を無事終了する事が出来ました事、中四国ブロック長として感謝申し上げます。

本年度もブロック役員一同、子供たちを中心に物事を考えて進めていきたいと思います。

中四国ブロック今年の目標として、まず第一に審判員の充実を図りたいと考えております。各支部共々活発に審判講習会を開き技術の上達をはかって2級審判員を30名体制に拡充してまいりたいと思います。そうする事によって子供たちの夢と希望にこたえられる様にします。今年度、仮承認ですが高知県に1チーム中学部誕生します。これをきっかけに高知県・徳島県にチームが増えると四国のボーイズリーグが活発に活動してくれるのではないかと思い今後に期待したいと思います。

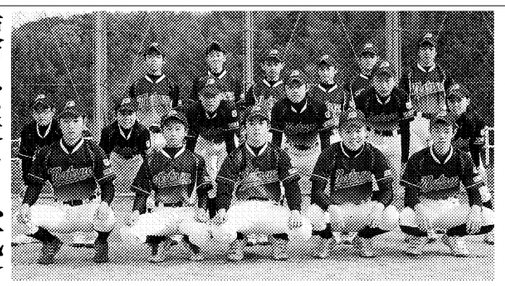
又、中四国ブロックでは山陰・岡山県・愛媛県各支部の支部長が新任でしたが、2年目に向けて1年間の経験を生かし、子供達のため野球ができる環境を整え、また野球ができる喜びを感じてもらえる様に頑張ってもらいたいと思います。

最後になりましたが、皆様にとって良き一年となります様に祈念申しあげます。

【中四国ブロック長・野中 善文】

今年も全国&昨年以上の結果

練習は厳しく、試合は楽しく!!



▲▲　心機一転で頑張る松江

新年あけましておめでとうございます。松江ボーイズです。昨年は、2年振りに中四国秋季大会に出場することができましたが、各支部代表チームとの力の差は歴然としており、多くの課題が浮かび上がった新チームでのスタートとなりました。

本年度は「練習は厳しく、試合は楽しく!!」のスローガンのもと、チームで共有する時間を今まで以上に大切にしていきたいと思います。

【松江ボーイズ】

まずは春季全国大会出場を

あけまして、おめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

新チームになり、秋季中四国大会県予選優勝、秋季中四国大会準優勝、支部秋季大会優勝と非常に良いスタートがきれました。まずは、春季全国大会の出場を目指して頑張ります。

12月5日、第15回川之江ボーイズ大会初日の夜、ホテルグランフォーレにて川之江ボーイズ設立20周年記念式典を挙行致しました。式典には、野中中四国ブロック長や大会参加チームの代表など総勢120名で盛大に行われました。

篠原代表より「地域に根ざしたチームとして、野球を通じて健全な少年の育成を図ります」。の挨拶に始まり、オープニングセレモニーでは川之江高校バトン部のダンス。アトラクションでは、迫力満点な和楽器演奏集団〝独楽〟による太鼓演奏に続いて、太鼓とコラボした長須中所獅子舞保存会による獅子の舞が行われ、会場は多いに盛り上がりました。

また、卒団生全員からのビデオレターも流され感動を呼ぶサプライズ演出の中、盛大に式典を終える事が出来ました。

【川之江ボーイズ＝横垣 浩志】

▲▲　創立10周年記念を迎えた美作

皆様にとって頑張ってもらいたいと思います。

【中四国ブロック長・野中 善文】

今年も全国&昨年以上の結果

皆様、明けましておめでとうございます。野球シーズンに備え、どのチームも体力づくりを中心とした厳しいメニューをこなしていることと思います。当チームは、チーム設立10周年の節目を迎えた昨年、全国大会へ出場することもでき、地域の皆様をはじめ関係者の方々よりたくさんのご支援ご声援をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。今年度も全国大会へ出場し、昨年以上の結果を出せるよう選手、保護者、指導者一丸となり精進していく所存です。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

【美作ボーイズ】